

1 はじめに

本校は、昭和39年に勤労女子生徒の教育の場として創設され、平成元年に通信制・単位制の課程を取り入れ、今日に至っている。

校務運営組織は、平成27年度より横断的組織とし、「技能連携生」と「個別生」の指導等を横断的に行っている。生徒数は、両者を合わせ5月1日付けで6,639名（昨年度6,974名）となっている。

2 技能連携生

技能連携校のうち1校が平成27年度に独立校となり、22校でスタートしたが募集停止校も数校あり、今後も減少傾向にある。生徒数は4,342名（昨年度は4,679名）である。H25年度に特待生制度を設け3年が経過し、各技能連携校から評価を受けている。

3 個別生

多様な生徒を受け入れているが、中学新卒の割合の増加傾向が続いている（4月時点で、H20年度37.0%、H23年度45.2%、H27年度52.1%）。大学への合格実績も、早稲田大学1名、関関同立27名をはじめ私立大学計294名、短大24名と、通信制高等学校でトップクラスの実績となっている。

多様な生徒に対応するため、年5期制で毎月入学ができるようにしている。本年度は、生徒数2,297名（昨年度2,295名）でスタートした。

生徒募集は、学校訪問を主に、入学希望者への個別の学校説明会（毎日、特定の土日もあり）を行っている。H27年度の入学者数は、857名である。（一昨年度895名、昨年度909名、ただし各年度末で）。減少の理由は、転編入生の大幅な減少であり、府全体の傾向である。

4 登校型コース（新設）について

5つ目として新しいコース（登校型コース）を設置して、3年が経過し初めての卒業生を出した。1～3年まで1クラスで運営しているが、入学希望者は2クラス規模となっている。

5 本校を取り巻く環境

本校を取り巻く環境は、以下のように厳しいものがある。

- ・国公立高校の授業料無償化施策、大阪府私立高等学校等授業料補助金制度等により、私立高校全日制を志向する傾向にあり、通信制高校の苦戦が継続中
- ・広域私立通信制高校（スマホ活用の高校）の教育特区を利用しての大阪市への進出（2年経過）。さらに大資本による広域私立通信制高校の開講（1年目）
- ・大阪府認可の通信制高等学校の開講予定（平成28年度）

このような状況にあって、常に先を見通した着実な手を打っていく必要があり、PJチームで検討を進め、一部動き出している。

6 最後に

次年度（H28年度）は、新たな取り組みが具体的に始動する時期であり、先を見通した着実な進展をすべき年度である。更に早稲田大学とのより深い関係の構築、より魅力的な教育内容の、進路実績の向上、新たな取り組み等が求められている。